



footpath
map

名前 TEL

たきかわ環境フォーラム

ECO

フットパス・マップ



たきかわを散歩する



ふるさと再発見の 愉しみ

古来、人は生活のために野山を歩き、そこに自然に道ができました。しかし、いつしか道は、ただ早く快適に移動できさえすればいい、と思われがちになりました。

フットパスとは、フット（踏み歩く）とパス（道）を組み合わせた言葉。ゆっくり歩くことよってのみ発見できる地域の自然とのふれあいを楽しみ、地域の歴史・文化・産業に触れ、そして地域の人々と交流しながら歩くこと、これがフットパスです。本場イギリスでは、今やすっかり文化として定着しているそうです。

たきかわ環境フォーラムは、滝川という地域にこだわったエコ（地域の）・フットパスを実践してきました。単なるウォーキングではない「ふるさと再発見の愉しみ」を、このマップから皆さんも体験してみてください。

たきかわ環境フォーラム 高橋一美



鎌塚碑 / 江部乙エリア (12ページ)

たきかわエコ・フットパスへのアクセス



JR特急は江部乙には停車しません。高速バスは滝川ICには停車しません。

- | | | |
|---------------|-----|---------------------------|
| 市街地エリア | 方法1 | J R 函館本線で滝川駅へ |
| | 方法2 | 高速バス、路線バスで滝川ターミナルへ |
| 東滝川エリア | 方法1 | J R 根室本線で東滝川駅へ |
| | 方法2 | 路線バス滝芦線で(滝川 - 芦別)で東滝川停留所へ |
| 江部乙エリア | 方法1 | J R 函館本線で江部乙駅へ |
| | 方法2 | 路線バスで江部乙中央通停留所へ |
| | 方法3 | 高速バス(札幌 - 旭川)で高速江部乙停留所へ |

東滝川エリア

ホロ・クラ (大きな・仕掛弓かける所)

河岸段丘に広がる緑の絨毯。
青空の下、田園の小道が続きます。

東滝川いまむかし

空知川は、十勝アイヌと空知アイヌの交流の道でした。空知アイヌの古老・空知保氏(故人)からの聞き書きによると、十勝アイヌは時にトパツミ(群盗)となって滝川アイヌを襲った、とあります。かつて市内2丁目を流れていたテパウンナイは、アイヌ語で「ふんどし川」の意。盗賊と争った際、血にそまったふんどしを洗ったところから名づけられたといわれます。

東滝川はかつて下幌倉と呼ばれていましたが、これはアイヌ語の「ホロクラ」にちなんだもの。「ホロ」は「大きい」、「ク」は「弓」のこと。近くにイオル(猟場)があったのでしょうか。空知川沿いにはポン(小さい)クラという地名も残っていて、縄文時代の土器などが多数産出

されています。

明治以降は屯田兵公有地とされましたが、1901(明治34)年に屯田兵は解散。間もなく「六戸」が入植して下幌倉開拓が始まりました。小林和三郎が一带の260余町を買い、いわゆる小林農場をつくります。また農商務省月寒種牛牧場滝川用地、農商務省滝川種羊場が設置され、のちに道立畜産試験場として「羊のいる北海道らしい牧歌的風景」として多くの人々に親しまれました。(河野敏昭)



03

東滝川エリア

04

東滝川エリア



A 東滝川駅

1913（大正2）年、下富良野線の開通により幌倉駅として開業。滝川駅を起点とする根室本線（終着駅＝根室）全線が開通したのは1921年で、鉄道延長450kmに及ぶ長大な路線です。

B 東栄小学校

1907（明治40）年、「幌倉特別教授所」として開校。その後「滝の川尋常高等小学校幌倉分教場」となり、第2次大戦後の1952年に東栄小学校となりました。



C 農場通り踏切～田園ゾーン

なんだか懐かしい石ころだらけの道。根室本線の踏み切りを越えて広々とした水田地帯を抜ける気持ちのいいルートです。春にはヒバリの鳴き声を楽しめます。道ばたの用水路には、かつて夏になるとホテルが乱舞しましたが、最近はめっきり減ってしまったよう。幌倉神社でお参りしてから、花・野菜技術センターの広大な牧場風景を楽しめます。



「めんこい仔馬」歌碑

東滝川駅前にあるメロディー歌碑。ボタンを押すと「濡れた仔馬のたてがみを / なでりゃ両手に朝の露」と、軽快な歌が鳴り響きます。作曲者の仁木他喜雄は、少年時代をこの地で過ごしました。生前親交のあった俳優・森繁久弥から揮毫が寄せられ、歌手・二葉あき子のリサイタルが行なわれたこともありました。



D 幌倉神社

幌倉地区の「開拓守護神」として、小林農場内に1909（明治42）年ごろ創立されました。かつて「金箱神社」と呼ばれたのは、小林家が長野県金箱家とゆかりがあったことに由来します。現在は東滝川住民の安全と豊作を祈願、子供御神輿を行なうなど地域に密着した神社として親しまれています。

幌倉神社 おまつり情報

春祭 / 4月10日
秋祭 / 9月10日



E 北海道立 花・野菜技術センター

(旧・道立滝川畜産試験場)



札幌ドーム24個が収まる広大な研究施設。レンガ造りの事務棟前に建つひつじ像は、ここが畜産試験場だった当時の名残です。白い研究棟の前庭ではガーデニングのプロたちが丹精込めた花壇を楽しめます。

研究棟前庭のトイレは平日のみ使用できます。ジュースの自動販売機あり。事前に連絡しておけば実験園場の見学も可能です(平日のみ)。問い合わせは同センター総務係へ。

0125-28-2800(内線207)

G 林間市道



花・野菜技術センターの事務棟と研究棟の間を抜けて丸加高原に向かう市道は、自然観察に最適。ダート道沿いの林は季節ごとに表情を変えて旅人を楽しませます。キツネやシカがひょっこり顔を出すかもしれません。丸加高原伝習館まで約5kmの道のりです。

旅先のウンチク 滝川のひつじとジンギスカン料理

滝川といえばジンギスカン料理。最初のレシピは1931(昭和6)年、ここ東滝川にあった北海道滝川種羊場(現在の花・野菜技術センター)の山田喜平場長によって記されたとか。タレで味付けした羊肉を焼く滝川ふうのジンギスカンの原型は、この時完成したのです。おりしも国は開拓期の北海道で「綿羊100万頭計画」を推進中でした。ひつじは今も市民に愛され、丸加高原では、放牧のひつじたちがのんびり草をはんでいます。



丸加高原のひつじたち

畜産試験場の名残

研究棟裏の小さな広場に2つの石碑が建っています。「獣魂碑」と「鶏魂碑」。畜産試験場だった当時、ここではたくさんのお家畜が飼育されていました。そんな家畜たちの魂を鎮める碑のまわりには今、野花が咲き誇っています。滝川畜産試験場は2000年、十勝・新得の畜産試験場に統合されました。



07

東滝川エリア

08

東滝川エリア

え べ おつ 江部乙エリア

ユーベオツ (ちょうざめのいる川)

満開の菜の花畑をひとりじめ。
ふりかえれば
大パノラマが広がります。



江部乙には、二つの駅がある

なだらかな丘が連なる江部乙地区の「開拓」は1894年、屯田兵400人の入植によって始まります。「江部乙村」として滝川村から分離したのは1909年。1952年に「江部乙町」となり、1971年には滝川市と再び合併しました。現在も純農地域で、水稲のほか、ナタネやリンゴの生産が盛んです。



JR江部乙駅舎

江部乙には駅が2つあります。JR函館本線の江部乙駅は、今でこそ無人駅ですが、戦後復興期には1日に1000人以上が利用する、農産物の一大発送基地でした。

一方、国道12号線沿いの「道の駅たきかわ」は、地元産品の直売所やレストランが併設され、江部乙観光の拠点として賑わっています。エコ・フットパスもここからスタートします。



スタート地点の「道の駅たきかわ」

09

江部乙エリア

10

江部乙エリア



B 野鳥館

日本野鳥の会滝川支部会員の大崎順助さんがコレクションを公開している私設ミュージアム。空知地方の野鳥たち

約100種を撮影した写真パネルやバードカービング作品、近くで採集した本物の鳥の巣などが展示されています。窓の外の餌台には、アトリやムクドリたちの姿も。訪問前に事前連絡を。

0125-75-2672（大崎さん）

C 江部乙公園

ランチタイムにぴったりの自然公園です。春にはミズバショウやサクラが咲き、秋にはリンゴが実をつけます。静かに待っていると野鳥たちが美しいさえずりで歓迎してくれるはず。ベンチ、トイレ、駐車場あり。



D 交流の森

江部乙公園のお向いにある「江部乙交流の森」には、ウッドチップを敷き詰めた遊歩道が伸びていて、森林浴にぴったり。大型の野鳥アオサギの滝川市内唯一の集団営巣地です。駐車場あり。



E 鋤塚と芽生村塾

時代は昭和初期。横山春一（1911年～89年）が、仲間と共に学ぶ農民塾として1932年に現在の江部乙東13丁目に開設したのが、芽生村塾です。春一が師事した賀川豊彦（キリスト教社会運動家、1888年～1960年）の勧めで、後に北海道農民福音学校としての活動も開始。農閑期の冬のみの開校でしたが、北大教授らが教壇に立ち、理想の農村づくりに燃える若者たちを教えました。

しかし社会情勢は悪化の一途

をたどり、1940年には賀川が反戦思想嫌疑で憲兵隊に連行され、春一も江部乙を離れてしまいます。芽生村塾と北海道農民福音学校の活動も終りを告げました。

芽生村塾の跡地には戦後、江部乙農業高校の新校舎が建設されました。その校舎も54年に移転されることになり、記念にこの「鋤塚碑」が建立されました。塚には春一のクワと、屯田兵が使用した官支給のクワが1丁づつ埋められています。

いわはしえい えん 岩橋英遠と 洋画家 一木万寿三 **F**



同じ1903（明治36）年生まれ
の岩橋英遠（99年没）と一木万寿三
（81年没）は、家が隣同士でも
にリンゴ園を営んでいました。幼
いころから親交があり、互いに影響
を与え合いながら画家を志しました。

2人は若くして上京しましたが、
創作のよりどころはいつも故郷に
ありました。英遠は大自然を壮大なス
ケールで描き、万寿三は農場で働く
人々の姿を明るく伸びやかな筆致で
描いて、芸術家としての成功を収め
たのです。

2人の作品は滝川市美術自然史館で常設展示。午前10時～午後5時開館
月曜・祝日の翌日・年末年始休館 滝川市新町2-5-30 0125-23-0502

G 大野耕太郎ギャラリー「^{とう きよ}陶居」

江部乙の風景に惚れ込んで移住したと
いう陶芸家が、見晴らしのいいアトリエ
の一角に私設ギャラリーを設けています。
大野さんは、岐阜県多治見や、スペイン・
マドリッドで作陶を学びました。伝統技
を発展させた独特の技法で生み出す作品
は内外で高い評価を得ています。訪問時
には事前連絡を。

0125-75-6568（大野さん）



H 屯田兵屋

1894年、江部乙屯田兵440戸が入植し、
家族ぐるみ「北の警備」と「開拓」に従
事しました。当時をしのばせる「兵屋」
が保存されています。



江部乙とりんごの物語

旅先の
ウンチク

1894年にこの地に入植した
屯田兵たちがりんごの苗木を共
同で植付けしたのが「江部乙り
んご」の始まりだったそうです。
当時から品質は折り紙付きで、
1905年の北海道農産物品評会
では見事1等を射止めています。
しかし大寒波が襲った13年の
冬には多くが枯死し、そのうえ
「腐乱病」が蔓延して一時は耕
作面積が激減しました。

それでも人々はめげずにりん
ご作りに励み、おかげで戦後期
には「りんご成金」が生まれた
ことも。品種改良も進んでりん
ごは江部乙随一の名物になりま
した。しかし今度は農産物貿易

自由化という荒波が襲い、かつ
て600ヘクタールを超えたりん
ごの栽培面積も現在では20分
の1程度に縮小してしまいました。

とはいえ、緩やかな丘の斜面
に連なるりんご畑の風景は、江
部乙のシンボル。そのただ中を、
エコ・フットパスは続きます。



東11丁目の高台から望む暑寒別連峰



市街地エリア

ソーラップチ (滝のある川の所)

暮らしのなかに、美がある。
文化がある。歴史がある。



15

市街地エリア

ふるき、よき滝川

幼い頃、「まち」に買い物に行くことが何よりの楽しみでした。必ず立ち寄った「名店ビル」。母親の手をぐいぐいとひっぱり、階上のペットショップで金魚や小鳥たちにあいさつしたあと、威勢のいい呼び込みのおじさんの声と買い物客で賑わう1階で、樽の中で泳ぐどじょうを飽きずにながめていました。

帰りは必ず「きくや」のたい焼きを、家族の人数分。ほかほかの紙袋を手に待った夕暮れ時のバス停には、それぞれいろんな「ほかほか」を抱えた人が、たくさん並んでいました。

滝川生まれ、滝川育ちの私にとって、これが「まち」の原風景です。時代とともに変わって

しまったまちの姿。でも、こかしこに「まち」のこれまでを語る“証人”が佇んでいます。歩いてこそ知ることのできる「ふるき、よき滝川」。忘れられないあなたの原風景が見つかるかもしれません。(吉住晴美)

16

市街地エリア



A 滝川駅

1898（明治31）年7月に鉄道上川線（現在の函館本線）の開通とともに、空知太駅が滝川に移転し「滝川駅」と改称されました。現在の駅舎は1962年に建てられたものです。滝川市

は明治時代から交通の要衝として栄えてきました。函館本線が通り、根室本線の基点でもある滝川駅は、その玄関口としてまちの発展を見守ってきました。

C 北洋銀行滝川支店

長く市民に親しまれてきた歴史の建造物です。1918（大正7）年、この地に開業した北海道拓殖銀行滝川支店が、14年後に市内で初めての鉄筋コンクリートビルとしてこの洋風建築の店舗を完成させました。コリント式柱頭を持つ「ジャイアントオーダー」（複数階を貫く高い柱）が並ぶ威風堂々とした建物の評価は高く、日本建築学会の「日本名建築物」指定（1979年）を受けています。1996年の改築工事では、市民の保存要望を受けて外観を保存し、内部だけがリニューアルされました。拓銀から北洋銀行に変わった今も、まちの記録を刻んでいます。



コリント装飾 = ローマ時代の神殿建築で発達した柱立のデザイン。アカンサス（ハアザミ）の葉をかたどった飾りが特徴です。

B 太郎吉蔵



1926（昭和元）年、五十嵐太郎吉が「五十嵐酒造店」の醸造米の貯蔵倉庫として建設した、美瑛軟石と推定される木骨石造りの建物。現在は文化施設としてとさまざまな芸術文化活動が展開されています。お問い合わせはNPO法人アートチャレンジ滝川

0125-22-7337

「通り名」物語

市街地の通りには、むかしの滝川の姿をうかがい知る素敵な「通り名」がついています。1897（明治30）年、通りに名前をつけてその位置を示すようになりました。楓の木があった「楓通り」、当時菜の花が盛りであったことを示す「菜花通り」。材木を積み重ねてあったことから付けられた「材木通り」。そして倉庫に面した「蔵前通り」。100年を越え、滝川の歴史を支えてきた道。親しみを込めて名前と呼んでみませんか。



D 滝川神社

1906（明治39）年創立。お祭や初詣のほか、人生の節目に参拝する人々の神妙な顔は今も昔も変わりません。境内には多くの碑があり、歴史探訪もおすすめです。

滝川神社おまつり情報

春祭 / 6月9日～6月11日
秋祭 / 8月22日～8月24日



E みなもと 水源公園



滝川神社横にあります。池にかかる遊歩道を渡りながら水辺の植物を観察することができます。特に、芽吹きの中と紅葉の美しい秋が散策のオススメ。駐車場も完備されています。

F 滝川市立滝川第一小学校

1893（明治26）年、「空知太尋常小学校」として開校。1909年にこの地に移転



され「第一尋常高等小学校」と名前が変わりました。小説「チョッチャン」で知られる故黒柳朝さんも学び、学校前の「一

の坂」を遊び場にしていたそうです。校舎前庭には高さの規準を記す「水準点」があります。

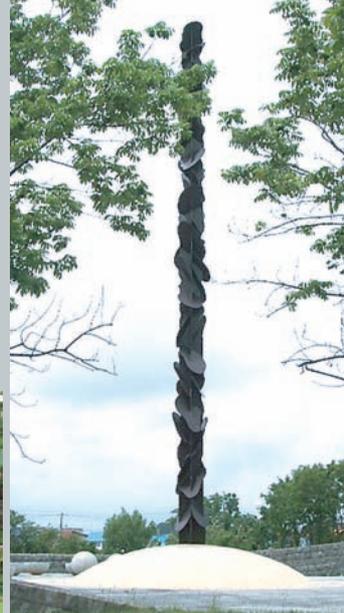
G 屯田兵将校官舎跡

屯田兵団が「開拓」した滝川市には、その歴史を示す多くの碑があります。校舎前庭北側にある「屯田兵将校官舎跡」碑もそのひとつ。兵村の統治者でもあった屯田兵幹部が入居した将校官舎は、樺戸集治監（現在の月形刑務所）の囚人たちの手で建てられました。



H 一の坂西公園

河岸段丘の斜面にある見晴しの良いこの公園は、多くの市民の憩いの場。公園のシンボルは滝川市出身の彫刻家、五十嵐威暢さん作の「ニヨキニヨキ」。公園隣にある「一の坂保育所」の子どもたちが名前を付けました。遊具も充実。童心に帰って迫力満点の滑り台体験はいかが？ トイレ、駐車場あり。



I レンガ造り倉庫群

堂々とした風格を競い合う赤レンガ倉庫群は、農産物の貯蔵庫として大正期に建てられたもの。今はレストランやフードショップなどとして活用されています。



J おた福餅本店



フットパスを歩いて疲れたら、甘味処で癒してみても。昭和元年創業の「おた福餅」では昔から変わらぬ甘さを提供。市内外に根強いファンがいます。お餅、お団子、あんみつなどのメニューがあります。月曜定休。滝川市本町1-4-13 0125-23-3393

フットパスは、 気まま旅。

足元は、履き慣れたスニーカーがいい。夏ならスポーツサンダルに膝丈のコットンパンツの組み合わせもあり、だ。お気に入りのTシャツの上に、思い切って派手なプリント柄のシャツを重ねよう。つばの大きなキャップは、少々の雨なら顔が濡れるのを防いでくれる。

ショルダーバッグ、あるいはデイパックの底には、防寒兼用のレインウェアを。ランチボックスと水筒のための余裕を残して、あとは趣味を詰め込めばいい。スケッチブックとコンテ、双眼鏡と野鳥図鑑、氷下魚とワンカップ……。おっと、欲張りすぎるとフットワークに差し障りますぞ。

この小冊子が紹介したのは、へばったらケータイでいつでもタクシーを呼べるルートだから、冒険とはいえない。でも歩いて初めて見つかるものって、結構たくさんある。新発見の感動は、何も遠くに冒険に行かなくて味わえるんです。

あちこち草草しながらノンビリ行こう。エコ・フットパスには決まりごとは、なんにもない。

たきかわ環境フォーラム代表
平田剛士



おしゃれで機能的なウェアを選ぶのも楽しみのひとつ。ナツを一袋ポケットに忍ばせて、歩きながらモグモグやるとエネルギーが切れない。数字で達成感を得たい人は、万歩計をどうぞ。

旅のおともに

たきかわ環境フォーラム「自然調べ隊」が四季を通じて観察してきた丸加高原の草花や野鳥たちの愛らしい姿が、分かりやすい解説文とともに紹介されています。定価500円。道の駅たきかわ、滝川市役所売店、TSUTAYA滝川店で発売中。ご注文はこちら
0125-24-2447 (越後)

丸加高原「自然観察の森」 ハンディ図鑑



たきかわ環境フォーラム ECOフットパス・マップ たきかわを散歩する

発行日 2007年4月20日 初版第1刷
編集・発行 たきかわ環境フォーラム
〒073-0034 滝川市空知町2-6-31
滝川市森のかがく活動センター内
0125-24-2447 (越後弘事務局長)
<http://ecoup.hp.infoseek.co.jp/>
印刷・製本 広小路印刷株式会社
〒073-0017 滝川市一の坂町西3-1-31
0125-22-4325

(C) Takikawa Environment Forum 2007. All rights reserved.

本書の内容を無断で転記・記載することを禁じます。

「たきかわ環境フォーラム ECOフットパス・マップ」は、財団法人北海道新聞野生生物基金の助成(2006年度)を受けて作成しました。

表紙デザイン 小山淳